学校番号	２２０１

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ②	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	「改訂版　新　高校の数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では教科書を用いて基本事項の解説および問題演習を行います。また、一人一人の習熟度に応じて難易度の高い問題演習も行います。
・練習問題に取り組む中で、自分の考えを発表し、グループワーク等で意見を交換する機会もあります。
・単元の初めや節目には、数学を楽しいと感じるようなレクリエーションなどもあります。

２　学習の到達目標

① 図形と計量，集合と命題及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
② 事象を数学的に考察したり，多面的・発展的に考えたりすることを通して，解決の過程や結果を批判的に考察・判断する力を養う。
③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形と計量，集合と命題およびデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。 また、事象を数学的に表現・処理する仕方や図やデータから特徴を読み取ることができる。	図形と計量，集合と命題およびデータの分析において事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な味方や考え方を身につけている。	図形と計量，集合と命題およびデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	第3章　図形と計量	第1節　三角比 1.直角三角形 2.三角比 3.三角比の利用 4.三角比の相互関係 5.鈍角の三角比	a:直角三角形において、正弦・余弦・正接が求められる。 b:測量の問題に三角比を活用できる。 c:直接測ることのできない距離を求めるのに興味・関心がある。	小テスト プレ定期考査 課題提出	小テスト プレ定期考査 課題提出	 ノート提出 授業態度 課題提出
		第2節　三角形への応用 1.正弦定理 2.余弦定理 3.三角形の面積	a:正弦定理・余弦定理を用いて三角形の辺や角を求められる。 b:三角形の面積を決定条件である２辺と間の角から求めることができる。 c:正弦定理、余弦定理の図形的な意味を考察しようとする。	小テスト 定期考査 課題提出	小テスト 定期考査 課題提出	 ノート提出 授業態度 課題提出
	第4章　集合と命題	1.集合 2.命題と集合 3.必要条件と十分条件	a:共通部分、和集合、空集合、部分集合、全体集合、補集合について理解している。 b:命題の真偽を集合の包含関係に結び付けて考察できる。 c:必要条件や十分条件、およびそれらの使い方を日常生活の中に見出し、利用しようとする。	小テスト プレ定期考査 課題提出	小テスト プレ定期考査 課題提出	 ノート提出 授業態度 課題提出
	第5章　データの分析	1.データの整理 2.データの代表値 3.データの散らばり 4.データの相関 5.仮説検定の考え方	a:データの度数分布表やヒストグラムに表すことのよさを理解している。 b:データの散らばりや相関を考察することができる。 c:物事の変化を分析する手段に関心をもち、自らデータについて分析、考察しようとすることができる。	小テスト 定期考査 課題提出	小テスト 定期考査 課題提出	 ノート提出 授業態度 課題提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度